

第2期計画の短期目標における具体的取組内容(案)

東大台

具体的取組内容	短期	実施場所	面積	実施手法	検討課題
1 自生するトウヒ、ウラジロモミ等の稚樹の保護・育成	b, e.	柵外 正木峠の南西側斜面【ミヤコザサ型植生とトウヒ-ミヤコザサ型植生(植生タイプIとII)の境界部分の疎林地】	4ha	<ul style="list-style-type: none"> 自生稚樹の確認調査およびママーキング(樹高30cm以上) 簡易な単木保護(ミヤコザサ生育地) 稚樹の生育地に小規模防鹿柵を設置(ガレ地、水道などササが侵入しない場所) 自生稚樹の確認調査およびママーキング(樹高50cm以上) 稚樹の周りのササ刈りを実施 	<ul style="list-style-type: none"> 区画を区切りながら調査を進め、おおまかな配置を地図に示しておく。 ママーキング資材は竹を使用し、長さを統一しておく。(稚樹の相対的な高さが把握できるため) 稚樹保護の手法については自生稚樹の量を把握してから検討する。 倒木・根株上の稚樹については生育基質ごと保護する。 ササ刈りの継続期間は3～5年程度とし、モニタリングを行いながら実施する。 必要に応じてノウサギの侵入防止柵の設置の検討する。
		柵内 防鹿柵No.5、6、16	—	<ul style="list-style-type: none"> 母樹への剥皮防止用ネットの設置(平成21年度500本程度実施済;正木峠の南西側斜面) 	<ul style="list-style-type: none"> メタルネットは金属イオン等の影響があり、環境に負荷を与えるので、平成22年度以降は基本として樹脂ネットへと切り替える。 樹脂ネットの葎岩類への影響、施工性について評価をしておく。 根の広がり部分を考慮した幅で樹脂ネットを筒状に巻いて下におくような仕様にし、その幅からはみ出す根については、メタルネットを巻いておく。
2 母樹の単木保護	a.	柵内 駐車場から日出ヶ岳へ至る上道沿いの斜面上部	—	<ul style="list-style-type: none"> 母樹への剥皮防止用ネットの設置 	<ul style="list-style-type: none"> 県有地での単木保護の対応について県の協力を得る等検討する。
		柵外 東大台の歩道沿い	—	<ul style="list-style-type: none"> 老朽化した剥皮防止用ネットの巻き直しの実施(現行のメタルネットは設置後10年程度が目安) 	<ul style="list-style-type: none"> 歩道沿いに樹脂ネットを設置する場合は、環境および景観に配慮するように検討するとともに、看板などを設置し、利用者への周知を図る。
3 植栽の実施	h.	柵内 防鹿柵No.6及びNo.5は北側を含める	—	<ul style="list-style-type: none"> 圃場トビヒ苗を利用した試験的な植栽の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 【植栽手法の検討について】 植栽手法については現地検討を行う。 苗木のサイズ合わせた植栽手法を検討する。 客土の利用について検討する。 一部は圃場に残すようにする。 配水池の柵内や車道法面などに自生する稚樹を苗木として利用することを検討する。 ポランテアとの協働作業についても検討する。 【植栽後の管理手法について】 自生稚樹の保護と同様に考える。
		柵外 柵No.6外の林縁部	—	<ul style="list-style-type: none"> 柵外では植栽した苗木に単木保護を実施 	

東大台

具体的取組内容	短期	実施場所	面積	実施手法	検討課題
4 防鹿柵内外でのササ刈りの実施	c.	<ul style="list-style-type: none"> 防鹿柵No.6周辺(ミヤコザサ草地とトウヒミヤコザサ型植生の間) 三津河落周辺(ブナ・ミヤコザサ型植生) 	※ 1ha ～ 2ha	<ul style="list-style-type: none"> 機械刈りによる大規模なミヤコザサの刈り取りの実施(1haの場合:50m×200m/1区画程度) 防鹿柵内外で実施 樹林下とササ地との両方で実施 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的取組の前に、ササ刈りの効果を検証するための規模の大きな実験を実施する。 地表の崩落等が発生しない箇所を現地で確認し決定。 モニタリング手法を検討する。

※現地の状況に合わせて決定。

西大台

具体的取組内容	短期	実施場所	面積	実施手法	検討課題
5 多様性の保全	a.	湧水地など多様性の高い箇所	--	<ul style="list-style-type: none"> 防鹿柵の設置 	<ul style="list-style-type: none"> 6のパッチダイフェンスも含めた平成23年度以降の5カ年計画(第3期ニホンジカ保護管理計画)を検討する。 パッチダイフェンスの有効性、大規模防鹿柵の必要性についての検討結果を示す。 ニホンジカの個体数調整と連携しながら方針を検討する。 柵内と柵外を分け、餌となりうるササの現存量とシカの個体数との関係を考えながら検討する。 歩道周辺、利用者からの可視範囲における配慮について検討する。
6 森林の更新の場の保全	b.	林冠ギャップ地	--	<ul style="list-style-type: none"> パッチダイフェンスの設置 	<ul style="list-style-type: none"> 保護が必要な林冠ギャップ地の把握については現地調査を踏まえて検討する。 人力でも施工可能な防鹿柵の仕様を検討する。 歩道周辺、利用者からの可視範囲における配慮について検討する。

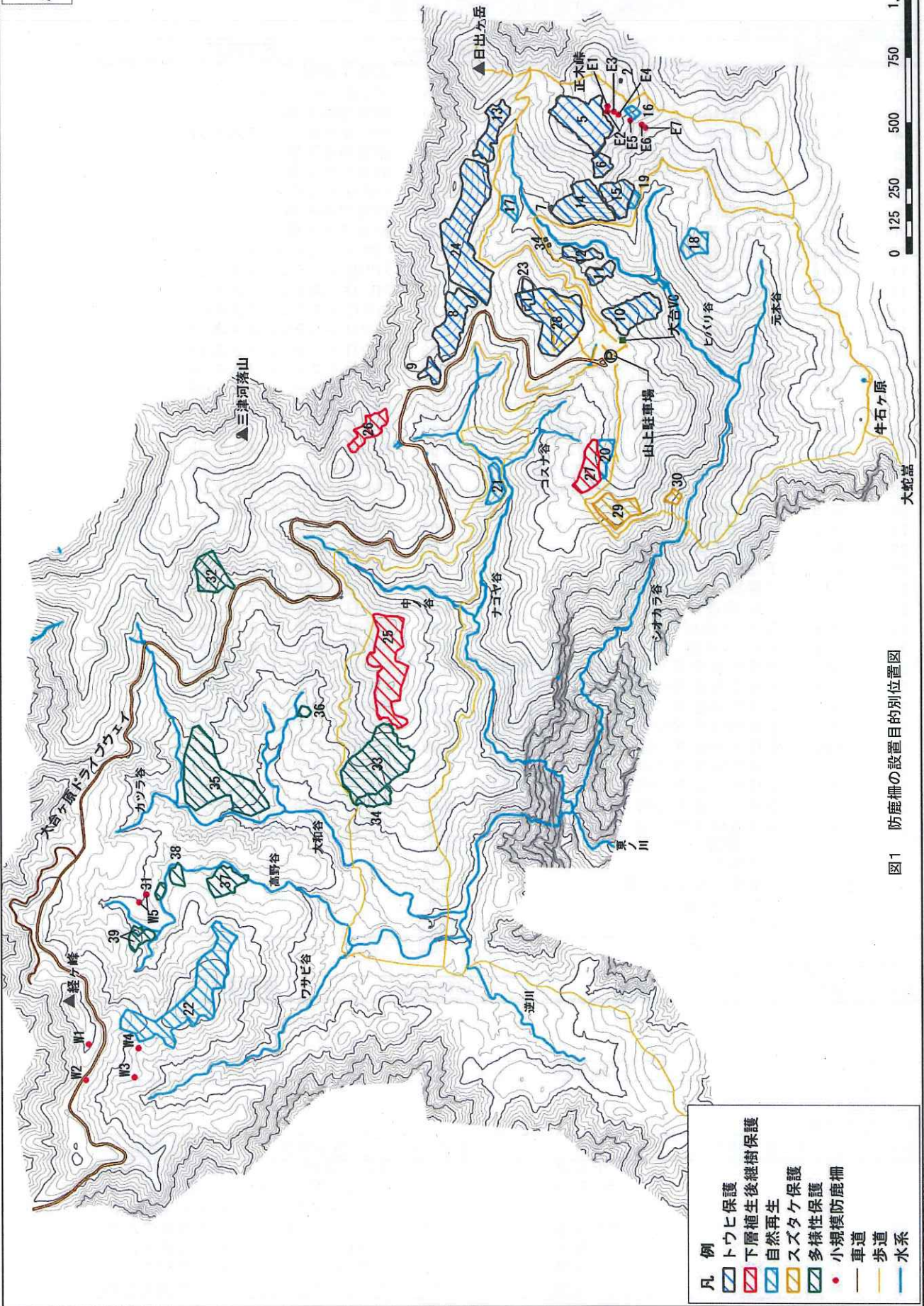
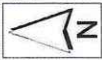


図1 防鹿柵の設置目的別位置図

- 凡 例
- トウヒ保護
 - 下層植生後継樹保護
 - 自然再生保護
 - スズタケ保護
 - 多様性保護
 - 小規模防鹿柵
 - 車道
 - 歩道
 - 水系

防鹿柵の設置概要(平成21年度まで)

現在設置している防鹿柵

番号	設置年度	目的	面積(ha)	構造種別
1	S62・H3	トウヒ保護	0.30	木柱+金網
2	S62	トウヒ保護	0.01	ポリ柱+ポリネット
3	H11	トウヒ保護	0.01	耐雪用格子柵
4	H11	トウヒ保護	0.01	FRP柱+ステンレス入ネット
5	H12	トウヒ保護(タイプI(ミヤコササ:既設))	3.08	耐雪用格子柵
6	H12	トウヒ保護	0.50	耐雪用格子柵
7	H13	トウヒ保護	0.01	FRP柱+ステンレス入ネット
8	H13	トウヒ保護	2.28	耐雪用格子柵
9	H13	トウヒ保護	0.42	耐雪用格子柵
10	H14	トウヒ保護	1.98	FRP柱+ステンレス入ネット
11	H14	トウヒ保護	0.59	FRP柱+ステンレス入ネット
12	H14	トウヒ保護	0.57	FRP柱+ステンレス入ネット
13	H14	トウヒ保護	1.37	FRP柱+ステンレス入ネット
14	H14	トウヒ保護	2.49	FRP柱+ステンレス入ネット
15	H14	トウヒ保護	1.23	FRP柱+ステンレス入ネット
16	H15	自然再生(タイプI(ミヤコササ))	0.17	FRP柱+ステンレス入ネット
17	H15	自然再生(タイプII(トウヒ-ミヤコササ))	0.43	FRP柱+ステンレス入ネット
18	H15	自然再生(タイプIII(トウヒ-コケ疎))	0.85	FRP柱+ステンレス入ネット
19	H15	自然再生(タイプIV(トウヒ-コケ密))	0.17	FRP柱+ステンレス入ネット
20	H15	自然再生(タイプV(ブナ-ミヤコササ))	0.63	FRP柱+ステンレス入ネット
21	H15	自然再生(タイプVI(ブナ-スダク密))	0.65	FRP柱+ステンレス入ネット
22	H15	自然再生(タイプVII(ブナ-スダク疎))	5.62	FRP柱+ステンレス入ネット
23	H15	トウヒ保護	0.17	FRP柱+ステンレス入ネット
24	H15	トウヒ保護	6.02	FRP柱+ステンレス入ネット
25	H16	下層植生後継樹保護	4.00	FRP柱、木柱+ステンレス入ネット
26	H17	下層植生後継樹保護	1.02	FRP柱、木柱+ステンレス入ネット
27	H17	下層植生後継樹保護	1.22	FRP柱、木柱+ステンレス入ネット
28	H17	トウヒ保護	4.26	FRP柱、木柱+ステンレス入ネット
29	H18	スズタケ保護	1.57	FRP柱+ステンレス入ネット
30	H18	スズタケ保護	0.15	FRP柱+ステンレス入ネット
31	H18	多様性保護(希少種、多様な生息環境)	0.17	FRP柱+ステンレス入ネット
32	H18	多様性保護(希少種、多様な生息環境)	1.48	FRP柱+ステンレス入ネット
33	H19	多様性保護(希少種、多様な生息環境)	4.63	FRP柱+ステンレス入ネット
34	H19	多様性保護(希少種、多様な生息環境)	0.85	FRP柱+ステンレス入ネット
35	H20	多様性保護(希少種、多様な生息環境)	5.99	FRP柱+ステンレス入ネット
36	H20	多様性保護(希少種、多様な生息環境)	0.16	FRP柱+ステンレス入ネット
37	H21	多様性保護(希少種、多様な生息環境)	1.13	FRP柱+ステンレス入ネット
38	H21	多様性保護(希少種、多様な生息環境)	0.49	FRP柱+ステンレス入ネット
39	H21	多様性保護(希少種、多様な生息環境)	0.50	FRP柱+ステンレス入ネット
		トウヒ保護	25.31	
		自然再生	8.52	
小計		下層植生後継樹保護	6.25	
		スズタケ保護	1.72	
		多様性保護	15.40	
		合計	57.20	

平成22年度設置予定

番号	設置年度	目的	面積(ha)	構造種別
小計		トウヒ保護	0.00	
合計			0.00	

撤去した防鹿柵

番号	設置年度	撤去年度	目的	面積(ha)	構造種別	撤去理由
R1	H1	H12	トウヒ保護	0.14	木柱+金網	No.5設置のため
R2	H4	H17	トウヒ保護	0.03	ポリ柱+ポリネット	No.28設置のため
R3	H5	H17	トウヒ保護	0.13	ポリ柱+ポリネット	No.28設置のため
R4	H5	H12	トウヒ保護	0.18	ポリ柱+ポリネット	No.5設置のため
R5	H7・8	H12	トウヒ保護	0.56	ポリ柱+ポリネット	No.5設置のため
R6	H7・8	H12	トウヒ保護	0.78	ポリ柱+ポリネット	No.5設置のため
R7	H8-10	H15	トウヒ保護	7.17	ポリ柱+ポリネット	No.23設置のため
小計			トウヒ保護	9.00		
合計				9.00		